
 学 会 記 事

第 109 回 膠原病研究会

日 時 令和元年 11 月 5 日 (火)
午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分
会 場 新潟大学医学部 有壬記念館
2 階 大会議室

I. 一 般 演 題

1 当科における乾癬性関節炎患者の検討

山田 政彦, 近藤 直樹, 藤澤 純一
遠藤 直人

新潟大学大学院医歯学総合研究科
機能再建医学講座整形外科学分野

【目的】乾癬性関節炎 (Psoriatic arthritis; 以下 PsA) は慢性炎症性疾患であり, 乾癬の皮膚症状に加えて関節炎や付着部炎を合併する。典型的な臨床経過は, 乾癬皮疹が初発し, その後に関節破壊や脊椎強直などの骨関節症状を発症する。しかし, 非典型例も存在しており, その場合は骨関節症状が初発し, その後に乾癬を発症する。本研究において, 発症様式 (皮膚先行, 骨関節炎先行, 同時発症) とその時間差, 関節炎の分布 (体軸型もしくは末梢型), 治療状況, について調査した。

【方法】対象は当科で PsA と診断された患者 66 例。期間は 2010 年 1 月～2018 年 12 月である。評価項目は PsA の発症様式, 皮膚病変と骨関節病変発症の時間差, 骨関節病変の分布を先行病変に分けて比較, 薬物療法, CASPAR criteria 陽性率とした。

【結果】性別は男性 51 例, 女性 15 例であった。平均年齢 56 歳, 発症時平均年齢 36 歳であった。発症様式は骨関節炎先行型が 17% であった。皮膚症状先行型は平均 13 年で骨関節症状を発症し, 骨関節症状先行型は平均 3 年で皮膚症状を発症していた。体軸関節障害は皮膚先行型で 29%, 骨関節先行型で 55% に認めたが, 有意差はなかった。CASPAR criteria は陽性率が 97% であった。

薬物療法は, 非ステロイド性抗炎症薬が 38%, conventional synthetic disease modifying anti-rheumatic drugs (csDMARDs) が 62%, biological DMARDs が 55% に投与されていた。

【考察】過去の報告では, PsA 患者の 11% において骨関節炎が先行しており, 本研究の 17% と同様であった。関節炎の分布については, 報告では体軸関節は PsA 患者の 40% 以上で障害されるとあり, 本研究では 32% であった。発症様式別でみると, 骨関節病変先行型に体軸関節障害が多い傾向にあったが有意差はなかった。

【結論】PsA 患者の 17% で骨関節症状が皮膚症状に先行していた。リウマトイド因子陰性の多関節炎患者では, 乾癬の発症に注意が必要と考えられた。

2 IgG4 関連腎臓病が疑われた 7 例の腎病理組織像の検討

須藤 真則¹・和田 庸子²・長谷川絵理子¹
若松 彩子¹・佐藤 弘恵³・小林 大介¹
中枝 武司¹・黒田 毅³・佐伯 敬子⁴
成田 一衛¹

新潟大学医歯学総合研究科
腎・膠原病内科学分野¹
新潟臨港病院 リウマチ, 膠原病内科²
新潟大学保健管理センター³
長岡赤十字病院内科⁴

【目的】臨床的に IgG4 関連腎臓病 (IgG4-RKD) を疑った症例の IgG4-RKD 診断基準 (日腎会誌 2011; 53 (8)) による分類結果と腎病理組織像を検討する。

【方法】2012～2017 年に当院で IgG4-RKD が疑われた 7 例の血液, 尿, 画像, 経皮的腎生検所見を検討した。腎病理組織は光学顕微鏡, 蛍光抗体法, 電子顕微鏡を用いて評価した。

【結果】7 例中 4 例が definite, 3 例が possible に分類された。definite 症例は特徴的な間質病変 (IgG4 陽性形質細胞浸潤と storiform fibrosis) を認め IgG4-RKD と診断されたが, 間質細胞浸潤の程度は症例によって異なっていた。また, 1 例